

# 九州朝陽会報

平成二十年七月一日発行 第6号

## 『ゆずのまんま』騒動顛末記

テレビで紹介されたことは、喜ぶべきか悲しむべきか？

豊田 信夫（新七回）

（株）中陽 副会長

表題だけでは、何のことやらさっぱりわからないでしょう。本題の前に、少し説明を付け加えます。

私の会社は、福岡市の地下鉄空港線、博多駅と福岡空港駅の間にある東比恵駅の近くに位置する、(株)中陽(チュウヨウ)という菓子総合卸会社です。年商120億、正社員100名、パート60名のちっぴけな会社です。

2004年の当社開発商品が『ゆずのまんま』です。ネーミングのとおり、柚子の皮をスティック状にして砂糖漬けたもので、1袋35g、上代140円で発売。当初から、健康志向のお菓子として女性の支持を得ていました。販売は地元福岡中心ですが、東京、関西ではキヨスクとumを中心に扱ってもらっていました。

さて本題。この『ゆずのまんま』が、一日にして大化けしてしまったのです。その顛末は、次のとおりです。

FNS系列の番組に、毎週土曜日8:30~9:55の生放送「にじいろジーン」というのがあります。司会は、『ぐっさん』こと山口智充とベッキー。東京はフジTV、大阪は関西TV、福岡は西日本TV。

4部構成の生放送番組で、

最初が「世界☆ぐるぐるジーン」海の向こうの7つの自慢」。

2番目が「紹介！ぐっさんにオススメJAPAN」。

3番目が一般女性を变身させる「にじいろミラクルチェンジ 日本全国ビューティ計画」。

最後が「食卓の裏技レシピ紹介」。

2008年の4月12日(土)。この番組の2番目のコーナー『ゲストのオススメ紹介』で、女優の鈴木砂羽さん(水谷豊主演の『相棒』というドラマで、相手役を演じる寺脇の女房役)がゲストとして、自分が今ハマっている一番好きなお菓子として、わが社の『ゆずのまんま』を紹介したのでした。



鈴木 砂羽 (すずき さわ)

ブログ2008/04/23より

大反響なのです。ゆずのまんま「にじいろジーン」登場以来、お問い合わせが殺到。そして・・・、な〜んと！製造元・アダージオさんからダンボールいっぱい送られてきましたよ！！

う、嬉しすぎる 社長様、本当にありがとうございました。自分がおいしいと思って食べていたお菓子がこんなにたくさんの皆さんに愛されたことが、かつてあったらどうか…。それくらいこの「ゆずのまんま」さんとしたらイカスやつ

まだ未体験のそのキミ！そんなに言うのなら・・・とすでに食べたくて仕方なくなってきましたよ？

そう、今すぐ「ゆずのまんま」クエストに出掛けるのだ！一口食べて、最初キミはその酸っぱさに顔をしかめてしまうかもしれない。けれどその突き抜けた酸味が、やみつきになってしまうことを身をもって知ることになるだろう・・・。日本茶か紅茶、お好みで忘れずにね

事前に番組企画会社からは、わが社に

予告はあったものの、まさかこれほど丁寧な紹介とは想像もしていませんでした。全ての人が4月12日の8時半にあの番組を見ている訳でもないのに、テレビの反響は「凄まじい」の一語に尽きます。

一人で20~30個買って行く人もいたそう。その日の内に東京のumは全店売切れ。東京のキヨスクにも同様に発注が一斉に集中し、受ける方はパニック状態。北海道などの未販売地域の人たちは、どこに行けば買えるのかとか、ホームページはないのかという問い合わせもあり、たちまち、入手困難な『幻の商品』と化したのでした。

一般消費者の問い合わせからヒントを得て、急速ホームページを開き、ネット

テレビ放映から一ヶ月経過してこの

寄稿文を書いている時点では、需要をとってもまかない切れないため、東京方面は販売中止にしています。発売最初から取り扱ってくれていた東京のキヨスクからは、きついお叱りを受けました。

時の経過と共に

にやがては消費者の購買意欲も沈静化するでしょうけど、小さい生産能力の商品が迂闊に

テレビで紹介されたら、とんでもないことになることを身を持って体験しました。

商品の袋には(株)アダージオという名前が販売者として印刷されています。

これは(株)中陽のことで、商品開発会社として別名で登録しています。文末にホームページアドレスを書いておきますので、ご興味のある方はお暇な折にでもぜひご覧になって下さい。以上、当社の

『ゆずのまんま』騒動顛末記でした。

<http://www.e-adagio.com/>

株式会社アダージオ

### 編者より

鈴木砂羽さんのブログにもあるとおり、酸っぱさがたまりません。店頭では九州地区限定。ネット購入は可能。

石井会長のお気に入り。噛んで長持ち、我がパソコン作業の友。『黒酢茶わかめ』。編者は、「黒糖きなこ」も大好き。

カレーの隠し味にもいいですよ。



# 急告!

平成20年度 九州朝陽会総会

日時：10月4日(土)

16時より19時半

会場：福岡市天神中華料理「福新楼」

演題 「師と弟の絆」

（母校へのおもひ）

今年度総会は、本部事務局のご協力を得て、母校元国語科教諭、朝陽同窓会顧問である

佐藤喜一先生のご講演を予定しています。



先生は、新1回卒業生。朝陽同窓会顧問。昭和38年〜62年まで母校で教鞭をとられ、多くの同窓生の恩師でもいらっしやいます。

「鉄道エッセイスト」としてのご著書もある先生を囲む会です。母校が結ぶ『絆』への思いを深める、よい機会となりますように。そう願ひまして、二次会の趣向も含め、幹事一同、準備して参ります。

詳細は、支部会員の方には8月下旬ごろに往復はがきでお知らせし、出欠の確認をいたします。

## 「たまゆらの旅路」 第一部 1号車

〜伊香保の宿から山科駅の別れまで〜

蘆花『不如帰』の旅路〜よせて

石井 幸孝(新3回)

明治の文豪や歴史上のものなど時代の違う作品を、当時の交通事情を想定して読み直してみると、思いもしなかった雰囲気が浮上し、さらにそこから思いが膨らむ。そんな面白さを教えられる一文でした。

私の思いが大いに膨らんだのは、文中の「なぜ山科なのか」という点です。山科は京都のポトルネックみたいなところで、小説発表当時の明治32年頃、京都で話題のホットスポットだったに違いありません。

山科は江戸時代から東の「逢坂山」西の「日ノ岡峠」に挟まれ、東海道の往来客と京都のお台所を賄う米や食料・物資の運搬で殷賑を極めていた要所。そのため東西の両峠越えに、江戸時代早くも鉄道の元祖ともいえる「車石」という牛車のための石軌道が作られていました。それがインクラインの船や鉄道に取って代わられていく、交通大変革の時期が丁度この頃で、とかく話題は山科にありました。

天子様ご不在となり寂れた京都復興のため、明治23年に琵琶湖第1疏水が完成。三十石船が天津〜山科〜蹴上に出来たインクライン(いわば船を乗せる鉄道)經由で、京都の都心まで運ばれることになりました。日本初の蹴上水力発電所の電力で、これも日本初のチンチン電車(京都市電)が走ったのが明治28年です。

「車石」ルートが、大正元年現京都市営地下鉄とつながる京阪大津線の前身大津電車軌道になり、文中の説明地図にもあるように、大正10年東海道本線逢坂山トンネル竣工で、山科新駅が北に移動。それまでは、大変な難所として、交通・鉄道史上もいわく因縁の所です。そんなあれこれへと思いが膨らむ、読書でした。

## ◎ 江戸時代の「車石」の再現公園

米などを積んだ牛車が「車石」の凹軌道に沿って引張られていた。いくなれば鉄道の元祖みたいなもの。日ノ岡峠(九条山)



「たまゆらの旅路」を読んで

小泉 純理(新7回)

第一部「汽車の汽笛は鳴る」のエッセイを読んでみると、遠い昔に訪れた懐かしい停車場、沿線の情景が浮かんできて、しばし懐旧の想いに浸ることができた。

それにしても、あの頃の鉄道の機関車に引かれた客車に乗れば、折々車窓からその土地の香りをかぎ、風を肌で感じたものである。空調で閉ざされた車両の中、ひたすら高速を求め、開けることの尽ならない車窓から、飛び去る風景を眺めさせられる昨今の旅人は哀れというべきか。「狭い日本そんなに急いでどこに行く」という、以前流行したフレーズが思い起こされてきた。

末尾の「朝陽」に関わる文章には、先生の、母校と同窓生に抱く深い愛着を感じ、あの朽ち掛けた学舎に、多感な青春時代を送った幸せをあらためてかみしめた。

そこかしこに、ほんのひと昔前にも思える来し方を懐かしく思い起こし、あらためて今日を考えさせられたこのエッセイ集、会員各位にも是非一読をお勧めしたい。

## 編者より「たまゆらの旅路」は、私家版

頒布価格2千円。ご希望の方は、事務局まで。

先生曰く「客貨車混合の臨時列車」は、紀行文、鉄道エッセイ、講演録、「朝陽」寄稿集など7号車仕立て。読者の気の向くままの号車からでも乗車が可能、先生とご一緒の旅を楽しめます。

◎ 購入可能な佐藤先生のご著書(7&Y調べ)

「鉄道の文学紀行 茂吉の夜汽車、中也の停車場」

中公新書 1830

価格819円(税込)

出版社 中央公論新社

## 事務局からのお知らせ

### 1 会員の動向

6月末現在会員の異動はありません。現在地域外会員の3名を含めて74名です。新規転入同窓生の情報がありましたら、事務局へご一報ください。

### 2 年会費納入の件

6月10日現在年会費未納の方が6名あり、その方には郵便振替用紙を同封していますので納付の無い場合は、9月末日までに納付の無い場合は、残念ながら、規定により退会の意思表示と判断いたします。郵政民営化で振替料金が値上がりしました。できるだけATMをご利用ください。

### 3 今年度総会

上に記載のとおりです。お誘い合わせて多数のご参加をお願いします。

### 4 寄稿のお願い

この会報も6号目になりました。その発行目的は、会員相互の連帯感を深耕することを主に、世代を越えた同窓生の意見交換の場となればとの願いもあります。その趣旨をご理解いただき、身辺雑記、世間の話題に関すること等何でも結構です。事務局から依頼させていただくこともございます。奮ってご寄稿ください。

【発行元】九州朝陽会事務局  
〒811-3221 福津市若木台1-20-7  
TEL&FAX:0940-43-5545  
【事務局長】小泉 純理(新7回)  
E-Mail kjun612@nifty.com  
【編者】山下 美智恵(新29回)